

第6学年の取組

1. 目指す児童像

学習課題をつかみ、自分や友達の考えを比較、検討することで、考えを広げ深める児童

2. 研修主題にかかわる身に付けさせたい力と児童の実態

児童の実態	身に付けさせたい力
<p>①学習課題を見通して、自分なりの考えを持つことができるか。</p> <p>【国語科】 与えられた課題には、まじめに取り組む。自分たちで学習課題を設定していく際には、数名の児童が中心となってしまう。自分なりの考えを持てるかは、個人差が大きい。</p> <p>【算数科】 学習課題に対して、既習事項を生かすなどして、自分なりの考えを持てる児童もいるが、個人差も大きく、考えを持ってない児童も見られる。</p> <p>【社会科】 個人差が大きい。考えが持ってない児童にアドバイスをする児童の姿が見られる。</p> <p>②学習課題を解決する場面で、交流活動を通して自分の考えを広げ、深めることができるか。</p> <p>【国語科】 交流活動をする中で、友だちの意見を分類わけしてノートに書いたり、取捨選択して自分の考えに付け足しをできる児童もいる。しかし、友だちの意見を聞いている、ノートに書き写しているだけになり、自分の意見と比べずにいる児童もいる。</p> <p>【算数科】 学習内容にもよるが、一つの意見・似たような意見にまとまる傾向がある。多様な考えを試し、比較しようとする児童は数名である。</p> <p>【社会科】 できる児童が多いが、交流場面の設定の仕方によって、実態が異なる。目的や課題意識が明確なときは広がりや深まりが見られる。</p> <p>③課題解決的な学習を振り返って、自分の考えをまとめたり、修正したりすることができるか。</p> <p>【国語科】 しっかりと学習を振り返ることができていても、自分の考えに自信がもてない児童が多く、友だちの考えを見て、自分の考えを全て消して書き直す児童もいる。</p> <p>【算数科】 自分の考えをまとめることができる児童が多い。しかし、友達の考えのよい点を取り入れて、自分で修正していくことは苦手な児童が多い。</p> <p>【社会科】 おおむねできる。傾向として、意見力が強い児童の考えに左右される傾向がある。</p>	<p>【国語科】 交流活動を通して、考えの相違に気づき、自分の読みを広げる力。(③)</p> <p>【算数科】 交流活動を通して、自分の考えと友達の考えの違いに気づき、よりよい解決方法を考える力。(③)</p> <p>【社会科】 交流活動を通して、学び合い、自分の考えを表現する力。(③)</p>

3. 目指す児童像にせまるための具体的な手立て

【国語科】

- ①児童にとって目的意識や解決する必要性を感じる課題を設定する。
 - ・学習の流れをしっかりと捉えるために、単元を貫く言語活動を設定し、モデルの提示をする。(作品の主題・本紹介・町の良さパンフレット・意見文)
 - ・初発の感想などノートをチェックし、児童の疑問も踏まえ、学習のねらい(単元のねらい)を設定する。
- ②意図的に設定された交流活動を通して、児童が自分と相手の考えを比べられるようにする。
 - ・単元や1時間の授業の中で、交流活動をいれる目的を明確にし、交流活動を設定する。
 - ・児童の考えや意見などをあらかじめノートなどでチェックし、グループ分けや学習形態を考える。
- ③児童の考えをまとめる時間を確保し、理由や根拠がある自分の考えをもてるようにする。
 - ・考えをまとめていく時は、文章を書くのが苦手な児童が取り組めるように文章の型を示す。
 - ・友だちの影響だけで考えを変えてしまうことがないように、根拠となる教科書の叙述に線を引かせたり、その考えにした理由を聞いたりする。
 - ・児童が自分の考えに自信をもてるようにするために、全員の前での発表の時間がとれなくても、少人数のグループでの発表の機会を設定する。

【算数科】

- ①自力で見通しを持つことを補助するため、考えを整理させる。
 - ・既習事項のどこにつながる学習だろうか。
 - ・何が今までと同じで、何が違うか。解決できないのは、何が障害となっているか。
 - ・既習事項の何を使うと、その障害を取り除くことができるか。
- ②発言が少ないため、考え方の交流が行われにくい。つぶやきやアイデアを含めて、教師が意図的に、交流のきっかけを作る。少数の意見や考え方でも大切に扱い、解決の場面で理解を図りながら、それぞれの考え方の特徴やよさについても考えていく。
- ③教科の特性で、解き方や自分の解答の正誤がはっきりするが、〇×で終わってしまうことのないように、自分の解答を振り返らせ、次にどのようにすれば解けるのか、他者の考えも取り入れながら、記入させていくようにする。

【社会科】

- ①めあてを提示し、まとめを意識できるようにする。
 - ・単位時間ごとのめあてと単元の学習問題を関連づけて提示するようにする。
- ②交流活動について、方法が明示されたシートなどを作成し、児童が理解できるようにする。
 - ・友達の見解と自分の意見の相違点、共通点を見いだす。相違点も認め、自分の考えを広げ、深める機会であることに気づけるようにする。
 - ・友達のやり方(まとめ方)を真似する。
- ③自分の言葉を使って授業のまとめをする機会を増やす。段階的にキーワード等も用いる。
 - ・「何が書いてあればよいか。どこまで書けばよいか。」評価基準を明確にすることで、自分が書いた言葉を加筆修正できる機会を設けると共に自信をもてるようにする。

4. 授業実践

〈一般授業指導案〉

算数科学習指導案

平成28年11月21日(月) 第4校時
6年組 算数少数 指導者 大沼 嘉和
場所 算数少数教室I (南校舎3階)

身に付けさせたい力
伴って変わる2つの量の関係を探し、既習事項を活かして課題解決方法をまとめる力

授業の視点
一部の紙の枚数から全部の紙の枚数を推測する方法を個々に持たせ、グループで比較・検討させたことが、自分の考えを振り返り、理解を深めるために有効であったか。

1. 単元名 比例と反比例
2. 単元の目標 比例の関係について理解する。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べる。[D2]
3. 本時の学習(1/18)
 - (1) 本時のねらい
紙の一部を調べた結果を用いて、紙全部の枚数を推測することができる。
 - (2) 準備 紙の束、定規、はかり、ものさし、電卓、ワークシート
 - (3) 展開

学習活動	時間	支援および留意点	評価項目
1. 学習課題を把握する。 <u>全体</u>		<ul style="list-style-type: none"> 紙全てを数えることの困難さを確認し、既習事項を生かして調べることへの意識を持たせる。 	
めあて：紙の枚数がどれくらいか、工夫して調べよう			
<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる量を探す。「重さ、高さ、体積…が変わる」 変わる様子を文にまとめる。 	5分	<ul style="list-style-type: none"> 調べることができる「紙に関わる量」を把握させ、その中で利用できそうな量を選択させる。 「量」とは、「数字と単位を用いて、そのものの特徴を表したものであること」を押さえる。 変化の様子が分かるように、文を考えさせる。「紙の枚数が増えると、○が増える」 	
2. 増え方を調べる。 <u>班→全体</u> 「倍、比例、x、などと関係する」	10分	<ul style="list-style-type: none"> 紙の枚数の増やし方と、調べる量を確認する。 調べながら、表に書き込ませる。 増え方に着目し、既習事項との関連を図る。「前に勉強した、○○と似ている。」 	
3. 全部の枚数を予想する方法を考え、調べる。 <u>班→全体</u>	10分	<ul style="list-style-type: none"> 「本時のめあて」を確かめて、課題を解決するため、新たに調べる必要があることを考えさせる。 表の「どこ」が分かり、「どこ」が不明なのかを確かめ、調べるべき内容を確認する。 分からない場合は、表で「紙全部の重さ」、「紙全部の高さ」を調べればよいことを助言する。 	【考】比や比例の考え方を使い、解決する方法を考えている。(言動・記述の観察)
4. 紙全部の枚数を求める。 <u>個→全体</u>	15分	<ul style="list-style-type: none"> 表や式を用い、既習事項(比、比例等)に触れて説明させる。 必要な場合は、誤差について触れる。 実態に応じ、電卓を用いさせる。 	
まとめ：増え方の仕組みを調べると、一部から全部の量を推測できる			
5. 学習のまとめを行う。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 世論調査や視聴率など、一部から全体を推測することが、社会でよく使われていることを知る。 比例について、更に詳しく学んでいくことを知る。 	

(4) 校内研修とのかかわり
表から見られる規則性を既習事項と関連づけて話し合うことが、児童が自ら考えを持ち、意見交流を進めながら学ぶために有効であったか。

(5) 本時の授業の反省
予想外の意見や当たり前と思う関係性を納得しない意見が出てきた。そのため、調べ方の妥当性を検討していく事を取り入れたことで、算数的な活動が増え、また少ない人数の児童とのかかわりも増えて、交流を意識した授業を通してねらいに迫ることができた。

社会科学学習指導案

平成28年6月17日(金) 第4校時

6年組 指導者 関 真克

場所 6年組教室

<身に付けさせたい力>
学び合い、自分の思いや考えを表現する力

授業の視点

追究する過程において、ジグソー法を用いたことは、自分や友達の考えを比較・検討し、室町文化が現在の世の中とつながりが深いことを表現する上で有効だったか。

1.単元名 今に伝わる室町文化

2.単元の目標 室町時代の代表的な建造物や絵画などの文化が生まれ、今日的生活文化に繋がっていることがわかる。

3.本時の学習(1/2)

(1)本時のねらい 室町文化が現在とつながりが深いことがわかる。

(2)準備 模造紙(1/2サイズ)、

ワークシート5種類 ①金閣・銀閣、②墨絵、③能・狂言、④茶の湯・生花、⑤まとめシート

(3)展開

学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目
1.課題をつかむ ・鎌倉幕府が滅亡し、室町幕府が開かれ、本単元では、文化について調べることを知る。	2分	・幕府の場所が鎌倉から京都の室町に移ったことを押さえ、室町時代は、文化面から時代の特色を考えることを伝える。	
2.課題を追究する ・エキスパート班活動で調べ学習を行う。 ・ジグソー活動で比較・検討をする。	38分	・予め教師が選定した児童にそれぞれ①から④のワークシートを配付し各項目について調べる。各項目に9人から10人。5分ほど調べたら、追加時間が必要か確認し、必要に応じて時間を調整する。調べた内容をエキスパートどうして確認し合い、自分が調べた内容に自信をもてるようにする。ワークシートに調べる観点を設けることで、個別の支援が必要な児童でも課題に取り組みやすくする。 ・普段の4(5)人構成の生活班に戻り、各自が調べてきた項目について、①から順番に自分の言葉で説明したり、友達の説明を聞いたりする。自分が担当した項目と、班員が調べてきた項目についての比較・検討を行い、共通点を見出すように指示をする。児童が見出した共通点を室町文化の特徴としてまとめるように促す。	〔思考・判断・表現〕室町文化が現在とつながりが深いと、考えている。(まとめシート)
3.課題をまとめる ・まとめシートに本時でわかったことをまとめる。 <本時に求める児童の意識> 室町文化は、現在とつながりが深い。	5分	・個人が本時のめあてを達成したかを評価するために、まとめシートを用いる。 ・個人では、めあてが達成できない児童も班員と共に、まとめシートに<求める意識>が記述されていれば、概ね満足出来る評価とする。また、教師は、そうなるように促す。 ・次時は、今日まとめた内容をクラス全体で共有することを伝える。	

(4)校内研修とのかかわり

ジグソー法を用いて交流ができるように学習活動を設定した。この活動を通して、自分の考えを表現する力を身につけ、第6学年の目指す児童像にせまる。

(5)本時の授業の反省

「ジグソー学習(交流活動)は手段である。」ということ意識して、単元や1単位時間の計画を構成する必要がある。本時のねらいや単元の目標、目指す児童像に迫るために適切な手立てを選択する必要がある。ジグソー学習においては、小グループ(エキスパート)に分ける際の児童の意欲を大切にしていきたい。

体育科学習指導案

平成28年11月21日(月)第3校時
6年組 指導者 松井 達利
場所 体育館

身に付けさせたい力
技能を高めるために必要なポイントを考える力

授業の視点
場面に応じて異質・同質グループを構成して交流しながら学習を進めたことは、跳び箱運動の技能を高めるために有効であったか。

1. 単元名 跳び箱運動
2. 単元の目標
 - ・自己の能力に適した技に取り組み、安定した動作で支持跳び越しができる。
 - ・励まし合って運動したり、機械・器具の使用の仕方を工夫して安全に運動したりすることができる。
 - ・自分のめあてをもって、練習のしかたを工夫したり学習資料を活用したりして、運動することができる。
3. 本時の学習(5/8)
 - (1) 本時のねらい 自分の力にあった回転系の技ができる。
 - (2) 準備 跳び箱 マット 踏み切り板 調整板 提示資料
 - (3) 展開

学習活動	時間	支援および留意点	評価項目
1. あいさつ・準備運動 ・場づくりをする。 全体	10分	・ 跳び箱やマットを置く位置を掲示し、安全に素早く準備ができるようにする。 ・ 準備運動に加えて補助的な運動も行う。	
ねらい1 できる技をさらに上手にしよう			
2. 学習課題を確認する ・「大きく演技する」 全体 3. グループで練習する。 グループ	30分	・ 学習カードを活用して、踏み切りや手の突き放し、タイミング、着地など、見てほしいポイントを伝えさせ、視点を定めてアドバイスし合えるようにする。 ・ グループで協力して、効率的に学習を進められるようにする。 ・ 大きく演技できる児童を取り上げ演技させることで、よりよいイメージを持てるようにする。	【思・判】 自分の力に応じためあてを持ち、練習の場や方法を工夫している。 (行動観察・学習カード)
4. 自分の挑戦技を練習する。 ・めあてを確認する。 ・挑戦する技を練習する。 小グループ		・ 同質の小グループを作り学習を行うことで、アドバイスや評価し合いながら共に高め合う喜びを味わえるようにする。 ・ 回転系の技を段階的に提示することで、個に応じた練習の場を設定し、着実に技能を伸ばせるようにする。	
ねらい2 自分の技に挑戦しよう			
5. 学習のまとめをする。 ・学習カードを記入する。 ・整理運動をする。 全体	5分	・ 本時を振り返り、技の出来映えについて学習カードに記入させる。	

(4) 校内研修とのかかわり

自分の技能を伸ばすためのポイントや友達の演技の出来映えなどを伝え合う活動を通して、技能を身につけるのに必要な思考力を育て、第6学年の目指す児童像に迫る。

4. 本時の反省

交流しながら学習を進めることで、友達の評価により自分では見ることができない出来映えの確認ができた。しかし、自分自身でも見て確認できるビデオ等の機材をもっとたくさん準備できれば、さらに技術の理解も進み、技の向上につなげることができたかもしれない。

5. 成果と課題 (○・・・成果 ●・・・課題)

【国語科】

○言語活動を設定し教材を通して学んだことを1つの作品にまとめたり、漢字や語句のクイズ大会を設定したりすることで、児童が単元や授業のめあてを意識して学習していくことができた。(①)

○交流を様々な授業で取り入れたことで、児童が自ら自分の考えを友だちと相談していく場面が見られた。(②)

●交流を普通の授業から取り入れて行った。しかし、なぜ交流をいれなければならないのかが明確になっていなかったため、自分の意見をいうだけにとどまってしまうことがあった。目的を明確にし、どこを比べるのか、チェックするポイントなどを提示していくことが必要である。(②)

●考えをまとめる時間を十分に確保できないことが多くあった。自分の考えを再考する時間もとれるとよりよかった。そのために、教師が1授業の中で行う活動や手立てなどを精選し、授業を組み立てていくことが必要である。(③)

【算数科】

○学習内容と既習事項を結びつけて考えるための発問を意識的に行うことで、課題を解決するためのヒントを自ら探すことができた。(①)

○つぶやき等の意見も教師が投げ返すことによって、友達の意見を聞いて自分の意見と比較する事ができた。(②)

●振り返って学ぼうとする意識は全体的に高まってきているが、個人差が大きくまだ支援を必要とする児童も見られるので、引き続き指導を行っていく。(③)

【社会科】

○ジグソー学習を用いて、交流活動を行ったことで児童が主体的に調べ活動を行ったり、生活班で自分が調べたことを伝えたりする機会を設け、目指す児童像に迫ることができた。(②)

●単元の学習問題を児童の疑問や気づきから設定する活動を取り入れることができない単元がいくつかあった。単元の導入で、いかに児童の興味関心を高められるか教材研究が必要である。(①)



グループ学習で自分が調べた活動を
伝え合う手順を示した板書



伝え合う場面。知識を
広げるための交流活動

【基礎・基本の定着】

○1学期・2学期を通して、漢字コンテストでは、80%以上の得点率の児童が88%に達した。2週間前からプリント学習を繰り返したことが効果的だった。

○「音読・家庭学習がんばりカード」に取り組んできた。家庭での学習時間を1日60分に設定したことで、児童と家庭がこの時間を意識して学習に取り組めるようになった。ほとんどの児童が毎日60分以上学習に取り組めるようになってきている。

●1学期・2学期を通して、計算コンテストでは、80%以上の得点率の児童が77%にとどまった。

●「音読・家庭学習がんばりカード」をもっと早く導入すれば、家庭学習を習慣化させることにつながったのではないかと思う。